



エコー研修に使用した胎児

今年度の繁殖部会と

ちょっと追い移植の話



勉強会の風景

今年度は6月10日に第20回目の繁殖部会の勉強会を行いました。

内容はエコー（超音波）関連の発表が3題

- ・「早期妊娠診断を取り入れた繁殖検診について」

標茶診療所 木村邦彦

- ・「牛繁殖超音波画像診断研修の復命」

浜中診療所 福山悠介

- ・「屠場材料を利用した超音波実習」

音別白糠診療所 藤田慎悟

ワークショップセミナーの復命が1題

- ・「周産期の病態生理と繁殖機能の抑制メカニズムの復命」

標茶診療所 平岡美穂

8月25日に第21回目勉強会

- ・宮崎県口蹄疫報告

高橋俊彦センター長

- ・阿歴内におけるシダー使用の報告

阿歴内診療課 有田光義

- ・追い移植成績

厚岸改良課 梶野裕史

以上今年度は2回の勉強会を行いました。

その中で6月の勉強会でエコーの発表が3題あるので少し説明します。

エコーの用途としては主にメガファーム等の繁殖検診の（メガ

ファームや繁殖以外でも使用します）際に妊娠診断（不妊牛の早期摘

発・24日〜30日齢の早期診断を行う

たり、その他にも発情発見率の改善↓授精率の向上、卵巣嚢腫の診断と

治療判定、卵巣機能（卵胞発育、黄体機能）の診断、子宮蓄膿症等の子宮疾患の診断、胎齢診断・生死診断

性別診断等ができます。

しかし、現状としてエコーの診断にはそれなりの技量と経験がなければ精度や画像診断力の個人差は大きくなります。（エコー画像を見慣れる努力が必要）

またエコーの台数も少なく全ての獣医が持つことはできません。

ここからは追い移植の話・・・

ここ最近追い移植をする酪農家さんが増えています。（F1の受精卵）

それは人工授精をするときに受精台帳が目に見えて授精回数が多いから

ではないでしょうか？

授精台帳を見たときに回数が多くと授精師もしくは酪農家さん自ら「とまらないから追い移植でもしてみろ？」と話しをしたりします。

追い移植とは

発情時に人工授精を行い発情後7日目に受精卵移植も同時に行う方法です。

利点として試験では受精卵移植単

独より、追い移植が高い受精成績であった。卵管閉鎖、癒着、卵子の不良にも同時に対応できるなどがあります。

以前は問題点として生まれる産子が授精によるものか受精卵移植による産子か判断するために品種の違う精液を使用していたが、産子の外見の特徴だけで授精由来か移植由来かを判断するのは不確実であり、遺伝子検査による特定は時間と費用がかかる、などがあります。

現在の追い移植受精卵は、受精卵作成時に使用した黒毛和種精液と同じものを授精時に使用することで遺伝子検査による親子判定を必要としません。（どちらの産子もF1扱いになるので）

皆さんの所に授精回数の多い牛はいませんか？繁殖の治療を一通りやっても受胎しない牛がいるときは追い移植をすることも対策のひとつだと思います。興味のある方は授精があるときなどに相談してみてください。

（標茶改良課 加藤 貴仁）